

4-1-4.加計呂麻島・請島・与路島の植物相

鈴木 英治

Flora on Kakeroma, Uke, and Yoro Islands

SUZUKI Eizi

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

International Center for Island Studies, Kagoshima University

要旨

奄美大島の南西部につながる加計呂麻島、請島及び与路島の3島は、南西諸島の有人島の中で最も植物相の研究が遅れている。そこで3島に延べ23日調査に行き、979点の標本を得た。鹿大標本庫にある加計呂麻島、請島及び与路島の種数は405、406、315、合計642種となったが、面積を考慮すると請島が最も植物の多様性が高いようだ。

はじめに

奄美大島の南東部につながる加計呂麻島、請島及び与路島は、南西諸島の有人島の中で最も植物相の研究が遅れており、木戸(2017)の報告があるのみである。その報告も観察記録であり、証拠標本は示されていない。この地域の植物を最も多く収蔵している鹿児島大学総合研究博物館の植物標本庫(KAG)でも、これら3島の標本は表1に示すように少なく、特に与路島の標本は1点も存在しなかった。そこで3島の植物相を調べるために、2018年4月~2019年10月の間に、加計呂麻島3回(延べ6日)、請島4回(延べ7日)、与路島3回(延べ5日)の調査を行った。採集した標本はKAGに収め、データと画像は鹿大博物館のホームページ(https://dbs.kaum.kagoshima-u.ac.jp/musedb/s_plant/s_plant.php)で公開している。

結果と考察

表1に各島から採集されKAGに収蔵されている標本の点数と種数を示す。ただし、KAGは現在データベースを作成中で、シダ植物はほぼ全て終わっているが、被子植物はエングラ一式の科名のアルファベット順でAから始まりRの途中まで約12万点が整理・公開されている段階にある。本研究を進める以前は、これら3島から469点364種の標本が集められていたが、本研究で979点、278種を追加することができた。島別の種数では、加計呂麻島、請島、与路島でそれぞれ405種、406種、315種、合計632種となった。鈴木・宮本(2018)は南西諸島の島のデータから種数と面積の関係式を作っているが、その式に従うと仮定した場合に各島にどれだけの種数があるかを計算したものが表1の予想種数である。加計呂麻島、請島、与路島の実際の種数は予想種数の49%、82%、71%に過ぎなかった。

木戸(2017, 2017b, 2018)は加計呂麻島、請島、与路島からそれぞれ、267、369、256、合計457種を報告している。木戸の報告を合算すると、各島506、540、403で合計763種となった。ただし、本調査では逸出・帰化していない外来植物を対象外としているのに対して、木戸の報告は花壇等に栽培されている植物も含んでいるように見える。

表1. 3島の面積、KAG 収蔵の標本点数、種数、および種数-面積関係式による予想種数。

島	加計呂麻島	請島	与路島	全体
面積(km ²)	77.25	13.34	9.35	99.94
総点数	550	554	344	1448
追加点数	239	396	344	979
総種数	405	406	315	642
追加種数	146	258	315	278
予想種数	826	494	446	



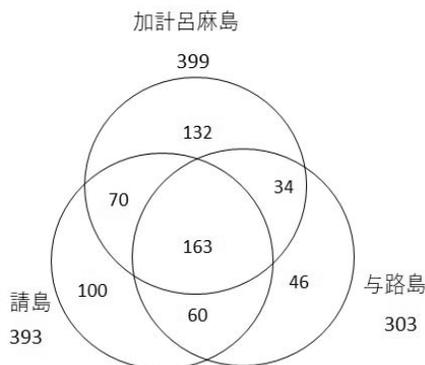
ほかに前田芳之らが瀬戸内町の植物相を調べるために収集した標本千点が瀬戸内町図書館・郷土館に収蔵されており、その中に加計呂麻島、請島、与路島の標本175点があった。その種数は各島90、47、23、合計149種であった。それもKAG標本と木戸のリストに合算すると、各島に513、549、412で合計787種となった。これらの種数は予想種数の62%、111%、92%となった。

面積では加計呂麻島が請島の5.6倍になるが、種数では請島が最も多かった。KAGの標本数でも請島が最多であり、面積比ほどには加計呂麻島で調査されていないことも影響しているだろうが、ウケユリなど希少種が発見されている請島では、種の多様性がほかの島より高いことを示しているようだ。なお、環境省の絶滅危惧IA類の中では、加計呂麻島でエノキフジ、アマミタチドコロ、ホウキガヤツリ、請島でアマミエビネ、ウケユリ、オオシマガンピの標本がKAGに存在する。

次に3島間の植物相の類似性を調べるために、種名まで判明している605種について、共通性を調べたものが図1である。全体の29%に当たる163種が全島に出現した。類似度を求めると、請島と与路島の値が、加計呂麻島と他の2島との間の値より高くなった。

外来種がこのような離島にいつごろから侵入するかは興味深い問題であるが、奄美大島に多いギンネム、シロノセンダングサはすでに3島に侵入していた。アメリカハマグルマは請島と与路島、セイタカアワダチソウは請島、ツボミオオバコは加計呂麻島で発見した。しかし、奄美大島に多いヒメジョオンは3島で発見できなかった。今後どのようになるか、注視する必要があるだろう。

図1. 3島の単独及び共通種数。



参考文献

- 木戸伸栄. (2017) 請島の植物. 鹿児島国際大学福祉社会学部論集 36:13-27.
 木戸伸栄. (2017b) 与路島の植物. 鹿児島国際大学福祉社会学部論集 36:29-42.
 木戸伸栄. (2018) 加計呂麻島の植物. 鹿児島国際大学福祉社会学部論集 36:63-76.
 鈴木英治・宮本句子. (2018) 南西諸島における島嶼間の植物相比較. 鹿児島大学生物多様性研究会 (編) 奄美群島の野生植物と栽培植物 26-34.